

## 第1回研究会における各委員からの御発言のまとめ

### 1. 現状

#### (1) 経済を取り巻く停滞の状況

公共事業の落ち込みからくる経済停滞（公共事業依存型経済の脆弱さ）

基幹企業による雇用の減少からくるマクロ数値では捉え切れない経済停滞、  
交通利便性が低く主要都市との結び付きが弱いことも足枷

地場産業（漁獲高）の落ち込みによる経済停滞（魚市場の過大設備化）

地域の生活維持に必要な所得を地域産業だけでは十分に稼げていない現状  
他方、このことは、「飴玉」福祉の影に隠れてしまい、内容が分り難いこと  
もあって、重要な政策課題としての市民の理解は不十分

#### (2) 人材確保難

- ・ IT企業などを誘致してもこれを支える人材は地域内では確保困難

#### (3) 市民の姿勢

- ・ 市民は（自分たちが選んだはずの）首長が悪いと文句を並べてばかり

### 2. 今後の取組について

#### (1) 基本的方向

- ・ 地域はモノの移出と集客で外から稼ぎ、稼ぎが域外流出するのを制すこと  
(域外流出は、地産地消、域外からの大型店の進出に対する防御などで制止)

都市計画法改正で手当て コバノシティ形成に向けての取組実施中

#### (2) 首長を中心とした取組

首長は経済自立度向上を有権者に訴えて正面から取り組むこと、そして、  
限られた地域資源を有効活用するため政策をパッケージとして打ち出すこと

行政・市民が長期的戦略とPDCAサイクルの下で地域資源を基盤に知恵を絞って経営感覚を持ちながら打開策に取り組むこと

### (3)市民による取組

- ・ 市民は、失敗を恐れず、失敗も地域の糧にしていくとの覚悟で、行政と共に様々な活動に取り組むこと

### (4)人材と企業に係る取組

- ・ 自ら道を切り拓ける人材の育成、人材の持てる力を引き出す経営、他と差別化して付加価値創出できる企業の成長が重要

### (5)インフラ整備

- ・ 条件不利性は正、具体的には、交通孤立状態を解消する高速道路網の整備

## 3.各地における取組について

### 十 勝

- 農業のブランド化（例えば、メークイン、長芋）
- 化石燃料依存度を下げるとのバイオ燃料導入
- 都市としての魅力の創出のため「北の屋台」を運営
- 農業のいろいろな価値を再認識するための取組
  - ・ 小麦畑の中に小スペースを作ってフィールドカフェを運営
  - ・ ビニールハウスの中でフレンチのフルーツが食べられるレストランの運営
- （併せて防風林をマスコットとした特色ある風景の価値を再認識）

### 八 戸

- 行政、民間、大学の力を結集して頑張っていこうと提案（産業政策）
- 環境・エネルギーに関する取組（エコタウン、リサイクル法対応）
- 水産業の復活・再生
- 市民による地域活動への参画の奨励(協働のまちづくりとして条例化)

### 飯 田

- 経済自立度を 45%から 70%に上げることを公約として政策を実施
- （主な取組）
- ・ 市民のパワーを結集、その力で人材を外から吸引する（「結びタツ」）
  - ・ 行政とのパワーアップ 協定によって企業の持てる力を最大限に発揮させる
  - ・ 環境文化都市実現に向けて地域ぐるみで取り組む

## 島 根

- 島根県主導の新素材開発など5項目にわたる新産業創出プロジェクトの実施
- 特産品の販売促進（島根ブランド）
- 地域挙げての観光振興（神仏霊場巡りなど出雲地域での連携、県域を超え大山・中海・宍道湖圏域での連携）

## 高 知

- 新しい価値を創造している地域企業の存在  
（超薄紙、猟銃、杭打ち技術、人材採用ノウハウといった領域での価値の創造）
- 大学による地域貢献（情報系、土木工学系での産学連携）

## 延 岡

- 大学を核としたプロジェクトの実施と新たな大学誘致
- 交流人口増加策の一環（合宿客狙い）としてのアスリートタウンとしてのメカ化
- （喫緊の課題として）防災(今年の台風14号による洪水の被害への対応)